

【完全無人運転が変えるモビリティの未来】 中国ロボタクシーの最新事情

～市場規模、利用実態、主要企業の事業モデルと日本の可能性～

— 講 師 —

株式会社浜銀総合研究所

調査部 主任研究員 奥山 要一郎 氏

日 時 2026 年 1 0 月 1 3 日 (火) 午後 1 時～3 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

〔重点講義内容〕

中国では 2021 年から自動運転タクシーの運行が始まり、今では北京や深圳などの街を完全無人のロボタクシーが走っている。実際に乗ってみると、自然な発進やスムーズなハンドル操作、違和感のない減速など、テクノロジーの進化を実感できる。現在の運行台数は数千台程度だが、2030 年には 100 万台を超え、世界全体の 70%を占めるとの見通しもある。

中国でロボタクシーの社会実装が進む背景には何があるのだろうか。現地での試乗体験を交えながら、ロボタクシー運営企業の収益状況や市場拡大の見通しなどをデータに基づいて分析し、その将来性を展望する。

1. 中国におけるロボタクシー試乗体験談
2. 中国と世界のロボタクシー市場規模の推移
3. 中国でロボタクシーの社会実装が進む背景
4. 市民の受容度と利用実態
5. 主要ロボタクシー企業の業績と課題
6. ロボタクシーは日本でも普及するのか
7. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 奥山 要一郎(おくやま よういちろう)氏

上智大学外国語学部イスパニア語学科卒。通信社、コンサルティングファーム、証券会社を経て 2025 年に浜銀総合研究所入社。自動車・自動車部品セクターの調査業務を担当し、各種情報発信やセミナーなどを行う。中国に 10 年以上駐在し、自動車産業をはじめとする現地の産業動向に精通する。

